



未来をつくる、出会いがある。

文化芸術による 子供育成総合事業

巡回公演
事業

芸術家の
派遣事業

コミュニケーション
能力向上事業

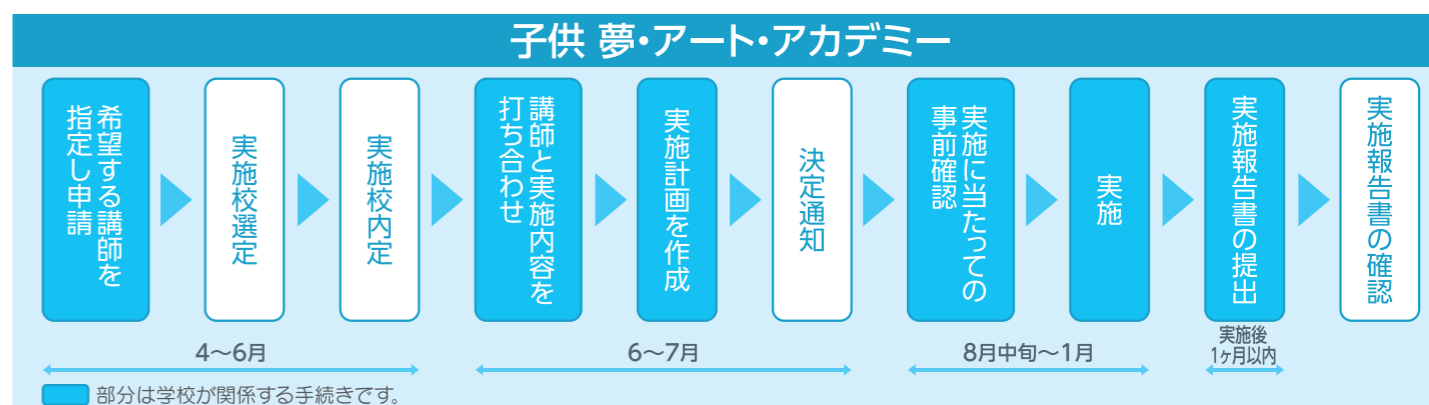
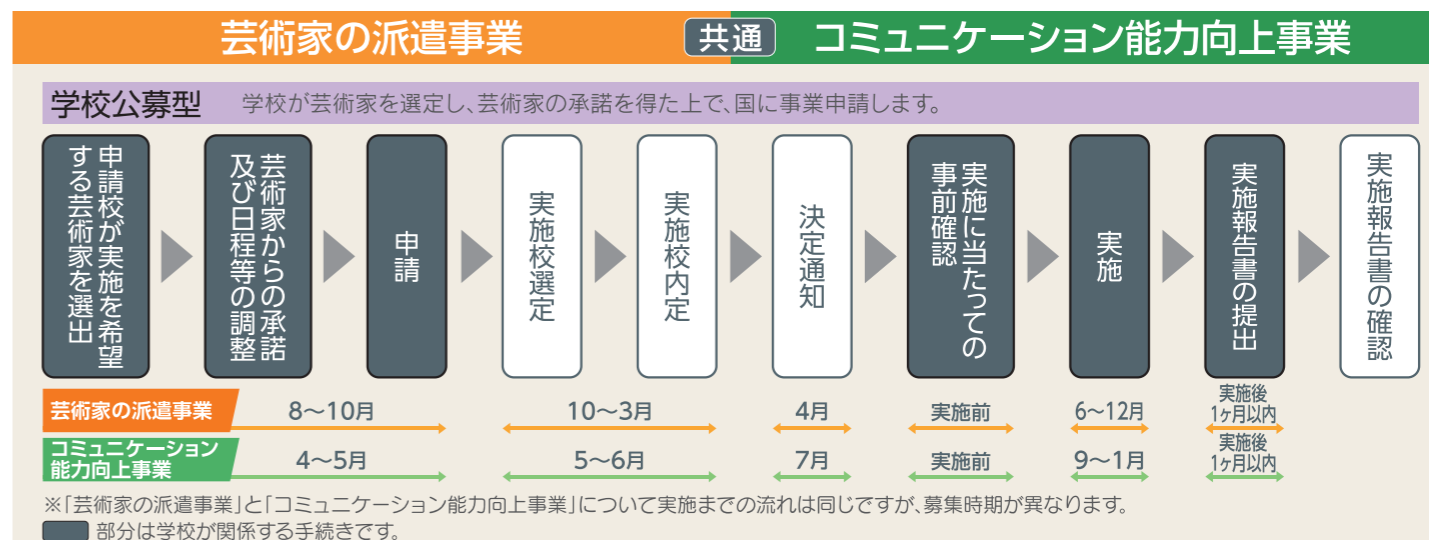
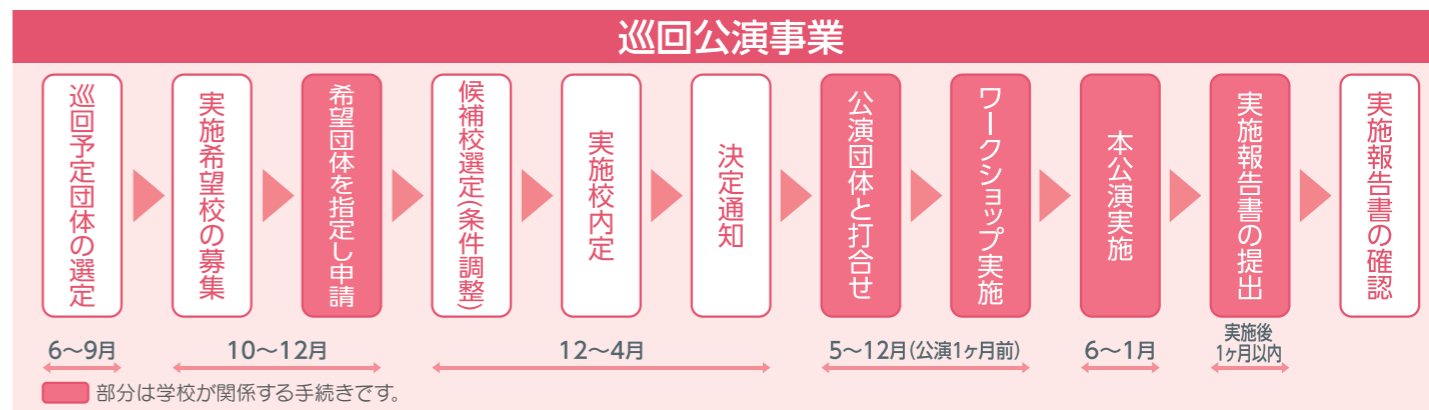
子供 夢・アート・
アカデミー

文化芸術による子供育成総合事業とは？

小学校・中学校等において一流の文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、又は小学校・中学校等に個人又は少人数の芸術家を派遣し、子供たちに対し質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、芸術家による表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等を実施する事業です。子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養うとともに、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。



実施までのながれ



お問い合わせ先

- 巡回公演事業
- 芸術家の派遣事業
- コミュニケーション能力向上事業
- 子供 夢・アート・アカデミー

文化庁 参事官(芸術文化担当)付
学校芸術教育室 芸術教育推進係

artedu@mext.go.jp



巡回公演事業

文化庁が選定した文化芸術団体が、学校の体育館や文化施設でオーケストラ、演劇等の巡回公演を行います。本公演前に文化芸術団体が実施校へ赴き、鑑賞指導や実技指導を行うワークショップでは、公演の鑑賞や児童・生徒との共演をより効果的なものとする事ができます。普段授業などで使っている体育館が、工夫次第で素晴らしい舞台へと変わっていく様子を体感することができます。



ポイント

- 1 選定された一流の芸術団体
- 2 事前に学べるワークショップ
- 3 児童・生徒も参加する本公演

文化庁が選定した一流の文化芸術団体の中から来てほしい団体を選べます。

本公演前にワークショップを行い、知識を深めることができます。

児童・生徒と一緒に公演に参加することで、理解と関心を深めることができます。

実施概要	
対象	小学校／中学校 中等教育学校(前期課程) 特別支援学校(小学部・中学部)
実施回数	ワークショップ 1回 本公演 1回
公演団体	文化庁が選定した文化芸術団体

公演種目

- 合唱
- オーケストラ等
- 音楽劇
- 児童劇
- 演劇
- ミュージカル
- 歌舞伎・能楽
- 人形浄瑠璃
- 邦楽
- 邦舞
- 演芸
- バレエ
- 現代舞踊
- メディア芸術等

実施例 1 オーケストラ



- 本公演プログラム
- オープニング曲目演奏
 - 楽器紹介
 - 参加体験型プログラムを交えながら複数曲を演奏

「拍子」に着目したプログラム構成を特色とし、2拍子～3拍子～4拍子～5拍子～変拍子と、それぞれ楽曲を取り上げていきます。拍子と曲想の関係性やそれらの音楽が持つ特質を感じ・学ぶことができます。参加型のプログラムでは、代表生徒による指揮者体験や、かけ声や歌での全員参加が可能です。



実施例 3 バレエ



- 本公演プログラム
- 第1部: バレエってなんだろう
 - 第2部: 舞台を見てみよう「シンデレラ」

第1部ではバレエの成り立ちや基礎知識を学び、幾つかのシンプルな動きの体験を通して、バレエをより身近に感じる機会を作ります。第2部では、第1部で体験したバレエの動きが、実際の作品ではどのように使われ、表現されているか、楽しく鑑賞しながら学ぶことができます。代表生徒が参加するシーンもあり、バレエ団とともに舞台を創りあげる一体感を味わうことができる構成としています。



実施例 2 能楽



- 本公演プログラム
- 狂言: 「柿山伏(かきやまぶし)」
 - 能: 「小鍛冶(こかじ)」

事前のワークショップでは、能楽の基礎知識や歴史を学習します。本公演では、通常理解することが難しい言葉遣いについて字幕(解説)付きで上演を行います。また、事前ワークショップ時に習った地謡の一節を全員で謡う等、参加型のプログラムを交え、より深い理解や体験につながる工夫をしています。



実施例 4 ミュージカル



- 本公演プログラム
- オペラ
 - 「口はロボットの口」

事前のワークショップでは「オペラ」とはどういうものか、「演劇」と「オペラやミュージカル」の違いは何か、実演を交えて説明します。また、本公演ではオペラ『口はロボットの口』を鑑賞するとともに、劇中の一曲「テトのパンはあ」を生徒全員で歌唱します。学校側の要望に応じ、バックステージツアーも行っています。



芸術家の派遣事業

個人又は少人数の芸術家による講話や実技披露、実技指導を実施します。講話や実技披露では、芸術への関心を高めさせ、優れた芸術を鑑賞することができます。また、ワークショップ等の実技指導を行うことで、日頃触れることのできない貴重な体験をし、芸術を身近なものと感じることができます。

【学校公募型】

学校が芸術家を選定し、芸術家の承諾を得たうえで、国に事業申請します。

【NPO法人等提案型】

国から委託を受けたNPO法人等が、学校における文化芸術活動の課題やニーズを把握し、芸術家を派遣します。



ポイント

学校が独自に選んだ芸術家に、講演・実演してもらえます

興味のある芸術家を講師として招き、話を聞いたり、実技指導を受けることができます。直接、芸術文化に見て触れて体感できます。

実施概要	
対象	小学校／中学校 中等教育学校／高等学校 特別支援学校
実施回数	1～3回
公演団体	個人の芸術家・小規模な芸術家グループ

公演種目

- 音楽(声楽、楽器など)
- 大衆芸能(落語、講談など)
- 文学(俳句、朗読など)
- 演劇(現代劇、ミュージカルなど)
- 美術(彫刻、書、写真など)
- 生活文化(華道、茶道など)
- 舞踊(バレエ、現代舞踊など)
- 伝統芸能(歌舞伎、和太鼓など)
- メディア芸術(メディアアート、映画、アニメーションなど)

実施例 1 大衆芸能(落語)



- 実施内容
- 「牛ほめ」
 - 「まんじゅう怖い」

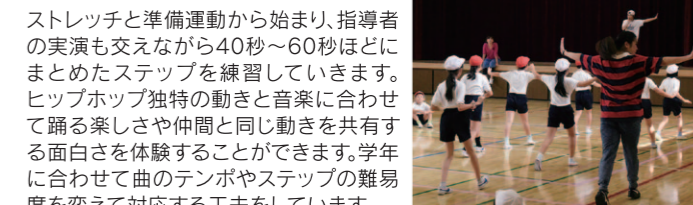
約90分程度の実施を3回行います。第1回目の実施では、お囃子、前座、真打の3名がそれぞれの役割や落語の決まり事について紹介し、最後は「牛ほめ」、「まんじゅう怖い」の実演をします。第2回目の実施では、道具の使い方と一緒に学びます。第3回目の実施では実際に生徒が高座に上がり、練習の成果を発表します。全3回の実施を通して徐々に落語に対する理解や関心を深めることができます。



実施例 2 舞踊(ヒップホップダンス)



- 実施内容
- ヒップホップダンス
- 学年毎に90分程度の実施を行います。(1日2学年の場合、全3回で最大6学年の実施が可能です。)



ストレッチと準備運動から始まり、指導者の実演も交えながら40秒～60秒ほどにまとめたステップを練習していきます。ヒップホップ独特の動きと音楽に合わせて踊る楽しさや仲間と同じ動きを共有する面白さを体験することができます。学年に合わせて曲のテンポやステップの難易度を変えて対応する工夫をしています。



コミュニケーション能力向上事業

芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養うとともに、コミュニケーション能力の育成を図ることを目的として、対話や創作、表現に係る体験活動において、協調・協働しながら課題解決に取り組むワークショップ等を実施します。

【学校公募型】

学校が芸術家を選定し、芸術家の承諾を得たうえで、国に事業申請します。

【NPO法人等提案型】

国から委託を受けたNPO法人等が、学校における課題やニーズを把握し、芸術家を派遣します。



▶ポイント

芸術家によるワークショップを計画的・継続的に実施
個人の芸術家・小規模な芸術家グループを学校に派遣し、表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等を最大12回まで実施することができます。

実施概要	
対象	小学校／中学校 中等教育学校／高等学校 特別支援学校
実施回数	3～12回
派遣者	個人の芸術家・小規模な芸術家グループ

公演種目

- 音楽(声楽、楽器など)
- 大衆芸能(落語、講談など)
- 文学(俳句、朗読など)
- 生活文化(華道、茶道など)
- 演劇(現代劇、ミュージカルなど)
- 美術(彫刻、書、写真など)
- 舞踊(バレエ、現代舞踊など)
- 伝統芸能(歌舞伎、和太鼓など)
- メディア芸能(メディアアート、映画、アニメーションなど)



子供 夢・アート・アカデミー

美術・文芸・音楽・演劇・舞踊の分野における芸術上の功績顕著な芸術家である「日本芸術院会員」が、講話や実技披露、実技指導を行います。
子供たちに文化芸術活動の素晴らしさを実感させ、夢を持って生きることの大切さを教えます。



▶ポイント

功績顕著な芸術家である「日本芸術院会員」が、講話や実技披露、実技指導を行います。

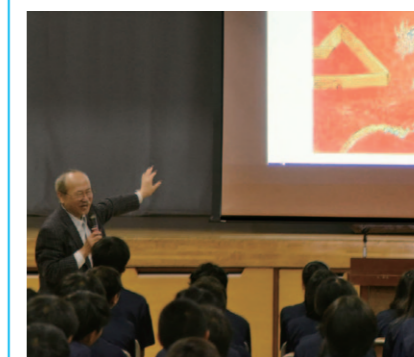
実施概要	
対象	小学校／中学校 中等教育学校／高等学校 特別支援学校
実施回数	1回
派遣者	日本芸術院会員協力者



公演種目

- 美術
- 文芸
- 音楽・演劇・舞踊

実施例



● 授業
パレットで絵の具を混色し、紙に自分が思う「感じの良い色」を表現します。その上に互いの肖像画を描くワークショップを行います。描いてから塗るのではなく、塗ってから描く逆転の発想で、表現の可能性を引き出します。

美術

● 講演会
じつとものを観察することの大切さや、自由に表現することの楽しさ、夢を持って生きることの大切さを伝えます。



実施後の学校関係者からの声



巡回公演事業
(演劇を鑑賞/特別支援学校)

ワークショップを活用し
理解や関心を高める

本校は聞こえにくい児童生徒が多く在籍しているので劇などの台詞が多い舞台は少し不安を感じていました。しかし、当日の子どもたちの様子を見ると、役者さんたちの表情や舞台の背景の移り変わりで、内容を理解していたと思います。また、ワークショップで練習した内容を本番の劇で参加させていただいたことも子どもたちにはよい刺激になったと思います。



巡回公演事業
(伝統芸能を鑑賞/小学校)

地域とともに考える
子供たちの未来

公演だけでなく、事前にワークショップが設定されているのも、子ども達にとって伝統芸能を身近に感じるよい機会になったと思います。子ども達にとっても意義深い体験となりました。また、地域の方にも声をかけさせていただき、多くの方に来ていただきました。地域の方に、学校に来ていただくよい機会となりました。



巡回公演事業
(音楽を鑑賞/中学校)

“本物”を間近で体験

体育館中に響きわたる音色に子どもたちが圧倒され、感動の渦に巻き込まれていくのがわかりました。高いレベルの芸術にふれることは、子どもたちの音楽への常識を変えることとなりました。バスを降りられるときから帰られるまでの団員の方々にのこやかですがすがしい態度には感動を覚え、演奏だけではなくプロとしての誇りも子どもたちに伝わったのではないかと思います。

実施後の学校関係者からの声



芸術家の派遣事業
(伝統芸能を体験/小学校)

多様な芸術と児童が結びつく
貴重な機会として活用

何より児童が生で直接に芸術と結びつくというのは最大の魅力であり、加えて、芸術家の技量が高く事業への意欲も大きい場合は、教育的な効果も十分に期待できます。さらには、そのような芸術家やその芸術と触れることで、教員など児童の周囲の大人の文化に対する意識や教育観、教養などを高める機会となり得ることもこの事業の大きな魅力です。



コミュニケーション能力向上事業
(演劇を体験/小学校)

課題解決のための協働による
他者認識と自己認識の深化

ワークショップに取り組む子どもたちは、課題に対し、悩みながらも粘り強く話し合い、他者とイメージを共有して、あきらめずに一緒に乗り越えることの大切さについて、身を持って経験することができました。同時に、教職員にとっても、子どもたちの現状の課題を改めて観察し理解することができただけでなく、普段の授業等では見せない可能性が見え、それらを講師陣と綿密に共有できたことで極めて貴重な機会となりました。



子供 夢・アート・アカデミー
(美術を体験/小学校)

芸術をより身近なものに
感じる「気づき」の場

担任や校内の教師が行うのと違い、著名な芸術家がいっしょにすることで、「芸術に触れる」という意識はとて高まりました。今回先生によるご自身の作品の紹介があり、行ったことがある駅で見たことのある作品を、この人が作ったんだ、という気づきは、これから町で芸術作品を見かけた際に思いを寄せるきっかけになると思います。